

## 比企の畑から

### 先住者

小宮山 洋夫

温帯に位置するわが国は、気候は温暖といわれるけれども、真夏の高温は、熱帯並だ。

昼下がりの夏の畑は暑熱地獄といってよい。農作業は朝と夕べに限られる。けれども収穫のために、また、観察のために、日中も暑さに喘ぎながらしばしば訪れる。冬の畑同様、人影はほとんどない。

トマトの赤、ナスの青紫、キュウリの緑、ピーマンの黄、緑、オレンジ、赤、紫と、夏の畑は、色彩があふれる、華がある、豊富さがある。

昨年の夏、ナス畑をすると横断するへびに出会った。畑の中では初めてだった。

へびは冬の間、地面の穴の中で冬眠して、暖か

くなると姿を現す。真夏に頻繁に見かけるところからすると、ヘビの行動は、高温下で活発になるようだ。

ヘビは、カエルやネズミを食べるといふ。それなら、モグラも摂食の対象になっているのだろうか。わが菜園には、モグラがたくさん住みついている。モグラはミミズを大量に食べる。モグラの数を抑制しているとすると、ヘビは歓迎すべき来訪者といえる。

畑の裏側に鳩山町で唯一の保育園がある。畑との境界には、大きな深い藪が横たわっている。その藪から小さな赤ちゃんヘビが、道路へちよろちよろ這い出てくるのを、畑への行き帰りに何回か目撃していた。藪にはヘビの家族が住みついているのだろうか。

ある日、コンクリートの道路にぺたっと潰れた赤ちゃんヘビを発見した。まるで、脱皮した脱け

殻のように。車にひかれてしまったのだった。

菜園の南側にも、アズマネザサの藪が広がっている。その南縁の窪地に小川が流れている。そこは、キジ、タヌキ、ヘビなどのオアシスとなっていると思われる、隣の畑仲間のT氏は、うれしそうに語っていた。

「あの藪の端で、タヌキが仰向けに寝ているのを見ましたよ」

知らんぷりして、畑仕事をしていたが、逃げ出すことなく、眠り続けていたという。

昨夏はまた、思い切った体験をした。散歩コースの林縁の道端にヘビを発見、自転車を降りた。



地這キュウリのつる

そつと近づいて、その背を触つてみたのである。しつとりと、ひんやりした感触だった。赤い舌をちろちろ出している。舌の先は二つに裂けている。まるで、炎を吐いているようだ。へびはしばらくじつとしていた。

皮膚の模様から、ヤマカガシとわかった。ヤマカガシは、顎腺から鱗を通して毒を発し、その液が眼に入ると失明することもあるという。後に図鑑をしらべて分かったのだが、畏怖するものには、いたずらに触らないことだと、冷や汗をかいた。

また、ある時は、突然の出会いに驚いたへびが、脱兎のごとくジャンプして、藪に逃げ込んだのを見た。

度々へびに出会うと、もともとこのあたりは、へびの土地ではないかと思ってしまう。

その通りなのだ。彼らは先住者なのである。それは、この土地に限らない。

進化の過程を振り

返つてみても、魚類、

両生類、爬虫類、哺乳

類とすすんできて、私

たちは、しんがりをつ

とめている。人間はは

るかにおくれて彼らの

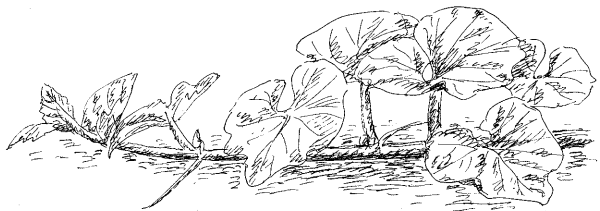
居住地に進出して、追

い払った。とくに土地

の水田化は、へびの世界をラジカルに圧迫した。

『常陸風土記』の行方郡の項に、次のような記述がある。

箭はずの氏、麻多智という人がいた。この人が



カボチャのつる

谷の葦原を開いて、水田にしようとした。その

見てとった。

時、「夜刀の神」が群れをなしてやってきて、妨害した。麻多智は怒り、鎧で身をかため、ほこで打ち殺した。それから、山の入口に杖を立て、

しかし、何よりも全身を大地に密着させている姿は、まさに「地についた生き方」を思わせる。

「ここから上は夜刀の神の土地として認める。しかし、ここより下は人の田にする。今後は、あなた方をあらためて神として祭るから、崇つたり、恨んだりしないでほしい」といつて社をつくったという。

それは大地のそのもの、自然そのものである。人間は直接的な自然との応答関係が失われているからこそ、ヘビに憧憬や畏怖を覚えるのだろう。

「夜刀の神」の夜刀は、谷戸、谷間の湿地のことである。谷間の神とはヘビのことだ。ヘビは古くは神だった。先住者であるヘビ神を駆逐して、人は文化を開いていく。

そういえば、人間もヘビのように這う感動的な一時期がある。さらに、だれしも母の胎内で、トカゲ顔、ヘビ顔で過ごす時期がある。

ヘビは何よりもその形態が、特異な印象を与えらる。緩急動きの自在性、まばたきしない眼。冬眠。そして何よりも脱皮しながらの生長。昔の人々はそれらに、再生、永遠の生、神的な様相を

夏の野菜には、地這キュウリ、カボチャ、トウガンなど、つるを伸ばし、ヘビのように地に這って実をつけるものが多い。その生育振りは、支柱で支えるトマト、立ちキュウリのそれに比べ、安定した安心した風景として映る。

(家庭菜園研究家)

カット 筆者